

海洋教育とSDG s キャンプ 実施報告

2021. 3. 18

SDG s キャンプ実行委員会

【名 称】

海洋教育とSDG s キャンプ

【日 時】

2021年2月21日(日) 14:00~17:00 (開場13:45)

【場 所】

(配信拠点) 朝日新聞大阪本社12Fアサコムホール
Teams ライブイベントにて配信

【対 象】

自治体・学校関係者・企業(CSR・人事・研修)担当者・社会教育担当者・一般

【募集人数】

オンライン 定員なし

※朝日新聞大阪本社12Fアサコムホールにて、リアル開催に向け準備していたが、
2021年1月28日、緊急事態宣言中のため、全てオンライン開催に切り替え。

【応募方法】

応募フォーム <http://t.asahi.com/sdgscamp>

2月18日(木) 締め切り。応募は1回1名。

問い合わせ先: 朝日新聞大阪本社代表室CSR推進(06-6201-8700 平日10時~18時)

【参加費】

無料

【目 的】

小中学校の新学習指導要領の解説にも取り上げられている「海洋教育」。その第一人者でもある東京大学大学院教育学研究科海洋教育センター特任教授の日置教授をお迎えし、「海洋教育」の意義や取り組み、その可能性についてご講演いただきます。

今年「組織キャンプ100年」を迎えたのを機に、海洋教育を取り入れ新しくデザインした「SDG s キャンプ」は、様々な社会課題に対し、自らの実体験を通じてSDG sの本質を理解し、「生きる力」を育むことが期待できます。

長年、社会に開かれた教育を実践している担当者が、その可能性についてお話しします。

【詳 細】

- ・講演(50分) +ワークショップ(50分) ※質疑応答10分含む
「新学習指導要領と海洋教育」

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

特任教授 日置 光久氏

- ・文部科学省選定アニメーション
「海ーいのちをめぐる旅」の上映

- ・SDG s キャンプについて(60分) ※質疑応答10分含む
「SDG s キャンプの持つ可能性」

YMCA 阿南国際海洋センター

所長 菅田 斉氏

【主 催】

大阪YMCA

【共 催】

SDG s キャンプ実行委員会

【協 力】

東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター

【後 援】

朝日新聞社、近畿日本ツーリスト関西、大阪府キャンプ協会、
大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、阿南市、阿南市教育委員会、
関西SDG sプラットフォーム、(公財)全国修学旅行研究協会

【告知】

- ・朝日新聞大阪本社夕刊「朝日新聞の窓」(1/26)
- ・朝日新聞大阪本社朝刊小型広告(2/1より計4回)
- ・朝日新聞社集客メール(2/2 全国の教育関係者+SDGs 関心層 約4万件)
- ・朝日ティーチャーズルーム(1/28・2/9 教職員対象約7000件)
- ・チューリップメール(2/8)
- ・関西SDGsプラットフォームHP
- ・大阪YMCA
- ・各後援承認機関など

【実施記事】

- ・2/21付朝刊(大阪版・徳島版)

【実施報告】

- ・応募者:298名 当日視聴者:約150名

- 講演「新学習指導要領と海洋教育」、文部科学省選定アニメーション「海—いのちをめぐる旅」の上映
まずは、文部科学省選定アニメーション「海—いのちをめぐる旅」を上映。その後、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター特任教授の日置光久氏は、「海の学びと人間形成」と題し、東京からオンラインでご講演いただいた。海の学びがどのように人間形成に活かされるのか。海洋基本法や新学習指導要領に照らし合わせながら、海洋教育の意義や、現在の取り組みについて話した。講演後の質疑応答の時間では、多くの質問がチャットに寄せられた。
講演後、日置教授は、「諸感覚をフルに使った体験活動は、生きる力を育む。体験ベースの新しい学びを考えていく必要がある」と話した。

- スピーチ「SDGs キャンプの持つ可能性」
YMCA 阿南国際海洋センター所長の菅田斉(ひとし)氏が、徳島の現地の海岸からオンラインで行った。海洋教育を採り入れ、自らの体験を通じてSDGsの本質を理解することを目的に、新しくデザインした「SDGs キャンプ」の持つ可能性を、現地の海水を使った実験を交えながら話した。現状、海洋センターで行っているプログラムが、どうSDGsにつながっていくのか、どのような効果が期待できるのか、通常のキャンプとSDGs キャンプとの違いを明確にしたスピーチとなった。
「SDGs キャンプ」を始めるキックオフとなり、今後の活動に弾みをつけるイベントとなった。



(今後の予定)

2021年5月27日(木)～29日(土) SDGs リーダーズキャンプ
7月31日(木)～8月3日(火) SDGs キッズキャンプ

※いずれも実施は、YMCA 阿南国際海洋センター

【アンケート】(海洋教育とSDGs キャンプ実施アンケートより抜粋)

有効回答数84

- ・体験から学んでいくことが素晴らしいと思います。
- ・地球を四角い地図で捉えるのではなく、ワールドで捉えるというお話。
- ・人と自然の結びつきの大切さと、教育の重要性を感じられました。
- ・正直なところ、海洋教育について考えたこともありませんでした。でも、地球上の海が占める割合を考えても、海と陸のつながりを考えても、地球を守るために不可欠であることは明白です。視野を広げてこれからの生活を、世界を、宇宙を見ていきたいと思いました。
- ・海を知り、親しむことは世界とつながること。
- ・自然という現象から学び、整理していく過程を論理的に説明されたこと。
- ・学校が積極的に今日のこのような海洋教育の専門家から学んだりする機会を多く持つべきだと思った。
- ・ワールドからグローバル、そしてプラネットというご発言が印象に残っています。
- ・実体験を経て関心が起きる。子どもころの体験の重要性。
- ・海を入り口として、山や川や大地のつながりまで学びを広げて行けたらいいという海洋教育に興味を持ちました。
- ・決められてことに従って、全員が同じ体験をするのではなく、目の前にあるものを使って1から物を作りだすなど、1つの行動で違う経験ができること。
- ・知識と理解は異なるということ。
- ・「海洋教育」という新しい視点での学びの重要性を知ることができました。SDGs キャンプでは、無人島体験に興味を持ちました。
- ・海をひとつの題材として使うことによって地球環境について考えるきっかけづくりを様々な視点からつくりだせるのではないかと感じました。
- ・講演する担い手が生き生きとした眼、子どもたちの眼に印象が残りました。また、海洋教育、SDGs について私たちのすぐそばに題材があって、マイクロプラスチック、資源、伐採によって起こりうる弊害等、気づかされ学びと今後の行動が楽しくなりました。
- ・大人の線引きで「できた・できなかった」、「成功・失敗」と勝手に評価するのではなく、そこに至るまでのプロセスを見守り、子どもたちが自分で得た気づきや学びに対して大人が共感してあげられることが大切だということ。

【添付資料】

- ・告知チラシ
- ・朝日新聞朝刊大阪版(2/21付)
- ・朝日新聞朝刊徳島版(2/21付)

